ここに云う「大津の宮の乾の山」とは、裏返せば大津京は崇福寺の巽の方角にあったということになる。扶桑略記は平安末期の僧皇円の著した史書ではあるが、その頃まで崇福寺は存立し大津の宮の位置を示す唯一の文献である。

崇福寺は、天智７年まず簡素に創建され、天智９年(670)食邑を封じ、天智10年の整備充実の勅に添い、天皇崩御後、諸堂塔が完成していったのであろう。

天智皇女但馬皇女(654~696)が、異母兄穂積皇子を思う恋歌

勅穂積皇子遣近江志賀山寺時但馬皇女御作歌
遣れゐて　恋ひつつあらずは　追い及かん
道の隈みに　標結え　吾が背

の「志賀山寺」は、大宝元年(701)の「その封30歳に満ちた為、之を停止し、封に準じて物を施す」とある「志賀山寺」や、宝亀５年(774)天智帝の為に、志賀山寺の僧を請じて読経悔過したとある（東大寺要録巻７）寺名は、ともに崇福寺を指した違いない。崇福寺は「紫郷山寺」を官寺としたその正式名であろう。

このように格式の高かった崇福寺は、平安初期の延暦年間には10大寺の一つとして、また延喜式では15大寺の一つとして、寺運は隆盛であった。続日本紀によれば、「紫郷山寺が官寺となったのは、聖武天皇６年の天平元年(729)であった」とある。

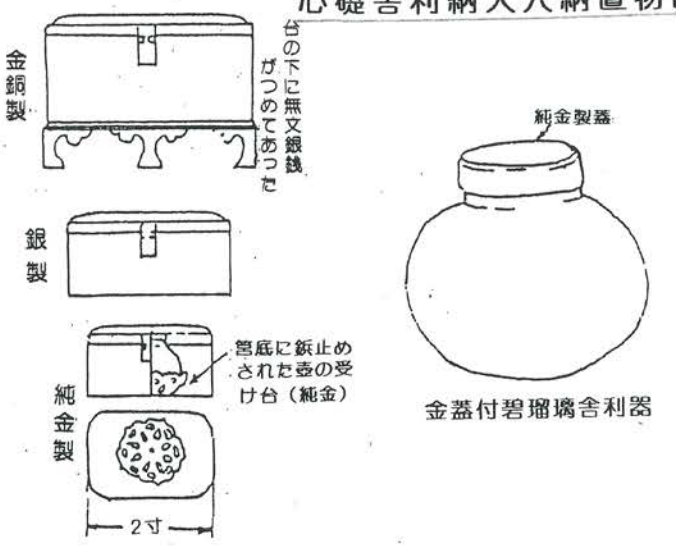
『枕草子』の「寺は志賀」は、両寺の何れかを指すのであろう。しかしその後炎上続き、長寛元年(1163)の延暦寺僧兵の園城寺焼討の時、梵釈寺，崇福寺共に類焼した。

崇福寺は、金堂に丈六弥勒仏、講堂に薬師仏、小金堂

に阿弥陀仏各１、及びそれぞれ脇侍に菩薩を配した３尊仏を安置したとあり、さらに小金堂の東には三重塔があり仏舎利を納めたとある。

発掘調査の結果、これら堂宇はすべて見出だされ、古文献の記録とよく合致する。特に塔趾の心礎は地上に露出しておらず、永らく確認されなかったが、中央の地下１ｍ余の所に据えられた大きい心礎が見つかり（法隆寺の塔と同一位置）、その側面に据えられた奥行26㎝高さ18㎝アーチ形の舎利納入穴からは、初納置そのままの姿で、舎利容器一具と荘厳具類，鎮壇の無文銀銭を発見するに及んで、この寺趾が崇福寺跡であることがほぼ確定したのである。それは昭和14年の発掘調査のドラマチックな成果であった。

心礎舎利納入穴納置物図



舎利容器は３重入子式で、その荘厳はインドに発し中国，朝鮮（新羅古都皇福寺）に通じた。外筥は脚付き金銅（黄銅）製、中筥は銀製の合子、内筥は純金製小合子そしてこの中に、純金のキャップをかぶせた深緑色の美しい瑠璃小壺が納められ、舎利３粒があった。

かくして崇福寺跡がほぼ確定されたから、従来大津の宮の位置を石山付近とか、或いは上代帝王都の故地と云う坂本近くの穴生（あのう）とか、種々取り沙汰されたものの、滋賀里錦織を中心とする一帯に絞られることとなった。近年錦織地区に宮殿跡らしい掘立柱穴が見つかった。滋賀県は昭和54年に、これを大津宮跡と早とちりの発表をしたが、宮の重要建物である大極殿又は朝堂院跡であることの確証がない限り、この発表は早計であった。

崇福寺に至る山道は、京都に至る旧道で、古くは山中越えといわれ、現在の山中越え（県道30号線）とつながる。右手路傍に立つ石仏の俗称「おほとけさん」は、鎌倉時代作と伝える弥勒菩薩（みろくぼさつ）座像である。「新羅の花郎に関わる弥勒信仰を持たれた」と云われる天智天皇に関わる石仏ででもあろうか。

志賀の石仏

作成　西村　誠　　改訂・４刻　末岐敏一

案内　横山蔦夫・中瀬士節

天智天皇（中大兄）関係　略年表

年　号	記　事
推古30（622）	葛城皇子（中大兄）生誕。 この年聖徳太子薨ず。
舒明12（640）	留学生 南淵請安（中大兄の師）帰国。在唐30年
皇極４（645） （大化 元）	[36]孝徳天皇即位。中大兄皇太子。 大化改新の詔。 12月　都を難波長柄豊碕宮に移す。
白雉３（652）	斑田終わる。 我が国で始めて戸籍（庚午年籍）を作る。
〃　４（653）	中大兄　孝徳天皇を置き去りにし、飛鳥河原行宮に帰る。
〃　５（654） （朔 元）	10月　孝徳天皇崩御。皇極太上天皇重祚（[37]斉明天皇）中大兄皇太子。
斉明４（658）	孝徳天皇の遺児　有馬皇子を謀反のかどで処刑。
〃　６（660）	東国の蝦夷反乱し、阿部比羅夫に討伐せしむ。この年百済国、唐・新羅連合軍に攻められ滅亡す。 百済再興の為、天皇・皇太子共々筑紫朝倉宮に行幸。
〃　７（661）	斉明天皇　朝倉行宮に崩御。 中大兄　飛鳥後岡本宮に帰り称制す
天智元（662）	百済に援軍を送る。

年　号	記　事
天智２（663）	白江村に唐の艦船と戦い、我が軍大敗す。
〃　３（664）	冠位26階を定む。 対馬，壱岐，筑紫に烽火、防人を置き筑紫に水城を築く。
〃　４（665）	百済の亡命者 400人余りを近江国神前郡に置く。
〃　５（666）	百済の亡命者1000人余を東国に移す。 11月大和国に高安城、讃岐国に屋島城，津島国に金田城を築く。
〃　６（667）	３月 大津京に遷都。
〃　７（668）	１月 中大兄即位（[38]天智天皇）。 ５月５日蒲生野に菓狩り。
〃　８（669）	中臣鎌足薨ず。藤原賜姓及び大織冠（正一位相当）を授く。
〃　９（670）	法隆寺 雷火に全焼す。
〃　10（671）	大海人皇子　吉野に出家。 12月３日 天皇崩御。
弘文元（672）	７月　壬申の乱。大津京全焼す。

古代史散策　No.１５　　追補

壬申の乱の経過略期

乱の前段

西暦	月日	記　事
671	09－	天智天皇 ご不例（或る本には8月とある）
	1017	天智天皇病重し。蘇我臣安麻呂（蘇我入鹿の従兄弟「連子」の子）を皇弟大海人皇子（後[40]天武天皇）に遣し、病床に皇弟を召し譲位を告げるも受けず。大海人皇子、即日内裏の仏殿に入り剃髪。
	19	皇子、吉野に向う。従う者鵜野皇妃（後[41]持統天皇），草壁皇子，ほか舎人・官女等30余名。左大臣蘇我赤兄，右大臣中臣金連，大納言蘇我果安等、菟道まで見送る。飛鳥の嶋の宮に一泊。
	20	吉野に入る。
	1203	天智天皇崩御。
672	05－	大海人皇子の舎人朴井連 雄君「近江朝は、天智の山陵築造と称して、美濃尾張の国司に人夫の差出しを命じ、人毎に武器を執らしむ」と申す。 或人「近江京より倭故京（鵤）に到る道に候（監視人）を置き、菟道橋の橋守に命じて、大海人側舎人の私粮：糧食を運ぶことを遮断す」と申す。

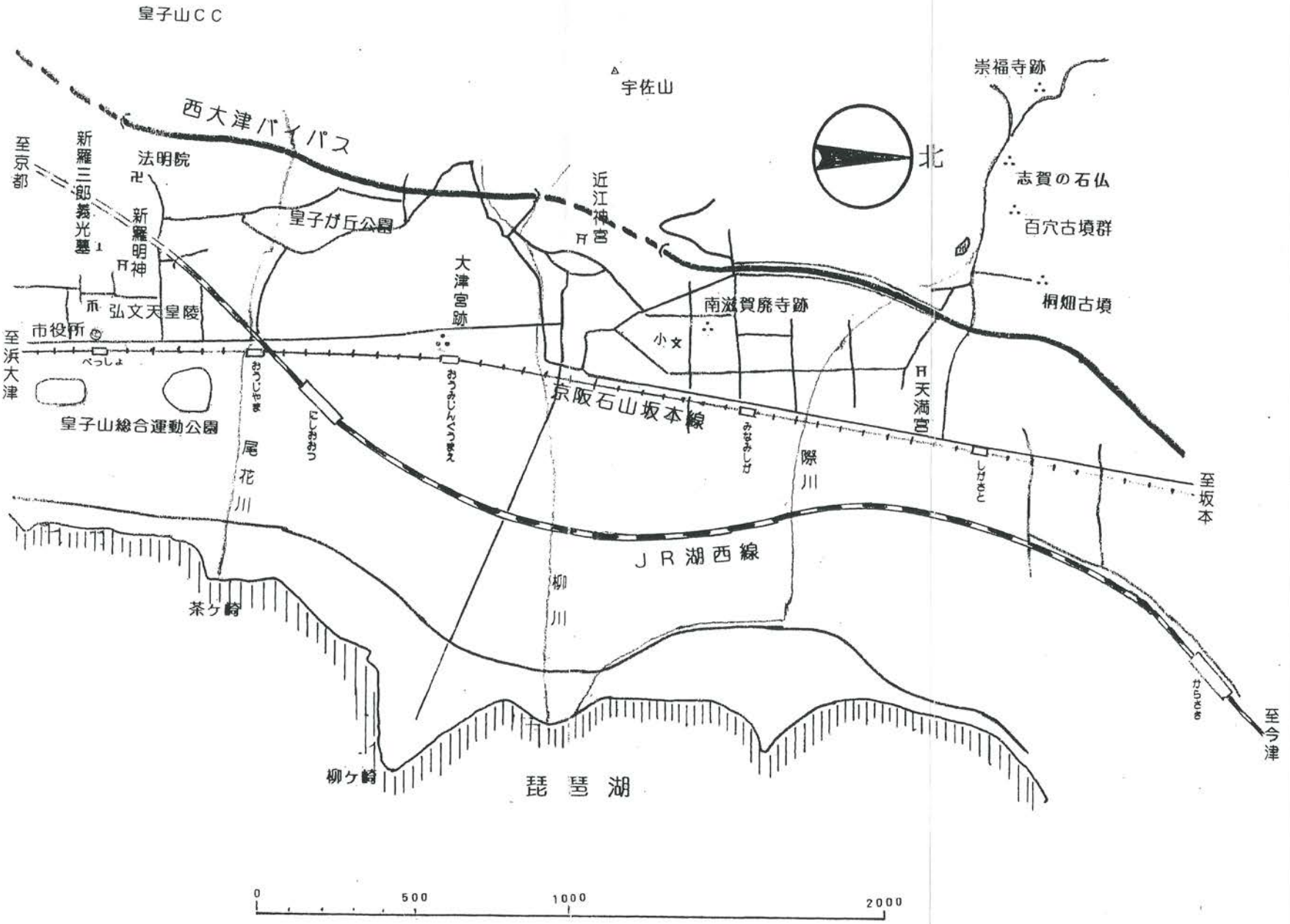
乱の経過

西暦	月日	記事
672	0622	大海人皇子、舎人村国連男依を美濃に派し、挙兵を命ず。
	24	倭京の留守司に駅鈴を乞う。近江京に残留の大海人皇子、高市皇子と大津皇子に父の挙兵を知らせる。 大海人皇子吉野を発す。鵜野皇妃，草壁皇子同行。夜を徹して東行する。
	25	早朝に伊賀国阿拝郡荊萩野に到る。 近江京を脱出した高市皇子、鹿深を越え積殖山口で父大海人皇子一行と出会う。鈴鹿の山道を塞ぐ。さらに東行して伊勢国三重郡に到る。
	26	大海人皇子、朝明郡の迹太川(現朝明川)の辺りに天照大神を望拝す。美濃の挙兵成功し、高市皇子を美濃国不破に遣す。大海人皇子伊勢国桑名郡に到る。 近江方各所に募兵する。この夜不破で、近江方の募兵使を高市方の伏兵が捕らえる。 近江方は、佐伯連男を筑紫に、樟使主磐手を吉備に派し、参戦を勧めるも失敗。 筑紫太宰師栗隈王，吉備国主当麻君広嶋共に近江方の誘いに応ぜず。 大伴吹負、大海人皇子方に味方し、大和で軍兵を集める。

西暦	月日	記事
672	27	大海人皇子不破に進軍。野上行宮を決める。
	0628	大伴吹負挙兵し飛鳥古京を占拠す。大和の諸豪族多くこれに従う。
	0701	大伴吹負近江京に向かい奈良坂に進撃河内の近江軍を防衛のため諸道に兵を配備。坂本臣財等、近江軍の拠る高安城を占領する。
	02	大海人側の本軍、伊勢，近江の両面より攻撃開始、大海人側の坂本臣財等、近江方の壱岐史韓国の軍と河内衛我河(現大阪府柏原市の大和川と石川の合流点付近)に戦い、敗れて懼坂の陣に拠る。
	03	大伴吹負、乃楽山に駐屯す。
	04	吹負、乃楽山で近江方の大野果安と戦い敗走。果安これを追跡し飛鳥に到るも引返す。近江軍諸道より大和に侵入す吹負、大海人皇子が派遣した置始菟の援軍と墨坂に逢い、共に引返して金綱井(八木，今井付近か?)に駐屯す。河内から侵入した近江方の壱岐史韓国と当麻に戦いこれを撃破する。東方より大海人軍続々大和に到着、近江軍を大破。
	05	近江方の田辺史小隅は、甲賀郡倉暦(近江国の現在の油日から鈴鹿山脈を越え新植に到る峠付近)の要地を

西暦	月日	記事
672		守備していた。大海人方田中足麿(たなかのたりまろ)を奇襲して破り、
	06	さらに追撃して、荊萩(たらの)野の大海人方多品治(おおのほむじ)(安八郡の湯の長官、大海人の挙兵に大功あり、太安麻呂の父)の陣を襲うも撃退される。
	07	村国連男依等、息長(おきなが)の横河(近江国坂田郡)に近江軍を撃破する。
	09	近江国坂田郡と犬上郡境の鳥籠(とこのやま)山(現彦根市の南)に近江方の将秦友足(はたのともたり)を討ってこれを斬る。
	13	安(やす)(野洲)川で近江軍の主力大敗し退却す。
	17	栗田で近江軍敗走す。
	22	両軍、瀬田川に決戦。大津京陥落。 大海人軍大津京を焼き払う。 大友皇子(後[39]弘文天皇) 都を脱出し逃亡。 大伴吹負、大和より難波に到りこれを押さえる。その配下の別将は大和より北上し、山背国乙訓(おとくに)郡の山前(やまさき)の河南(現男山山塊付近樟葉辺りか)に達す。
	23	村国男依等残敵を掃討。大友皇子山前に自剄す。(この山前は現大山崎かと云うが不詳。一説に御陵地かと)
	24	大海人方諸将軍筱浪(ささなみ)に集い、さらに残敵を追捕、大友皇子の遺骸を発見しその首を打つ。
	26	攻撃軍の将軍不破、野上宮に凱旋し、大友皇子の首級を大海人皇子に献ず。

西暦	月日	記事
672	0825	近江側の軍臣の罪を裁く。右大臣中臣金を浅井の田根に斬る。左大臣蘇我赤兄，大納言巨勢臣(こせのおみひと)比等，蘇我果安、その子などを悉く配流。
	0825	
	27	諸兵に論功行賞する。
	0915	大海人皇子、飛鳥岡本宮に帰還。 (9月8日 伊勢桑名→9日 鈴鹿→10日 伊賀の阿閉→11日 伊賀の名張→12日 倭古京の嶋の宮→15日岡本宮) この年、岡本宮の南に飛鳥浄御原宮(あすかきよみはらのみや)を造営。
673	0227	大海人皇子、飛鳥浄御原宮に即位。 [40]天武天皇である。


皇子山ＣＣ
宇佐山
崇福寺跡
西大津バイパス
北
志賀の石仏
百穴古墳群
桐畑古墳
至京都
新羅三郎義光墓
法明院
新羅明神
皇子が丘公園
近江神宮
大津宮跡
南滋賀廃寺跡
小文
弘文天皇陵
市役所
至浜大津
べっしょ
おうじゃま
おうみじんぐうまえ
にしおおつ
京阪石山坂本線
みなみしが
際川
天満宮
しがさと
至坂本
皇子山総合運動公園
尾花川
ＪＲ湖西線
柳川
茶ケ崎
からさき
至今津
柳ケ崎
琵琶湖
0
500
1000
2000